

週報 No.2316号

本日の例会（第2317回）
平成30年1月16日(火)

予定行事



★お誕生日のお祝い

尾下 千明 会員（69歳） 井上 芳郎 会員（44歳）

★卓話 クラブ討論会⑦「後半にむけて」

卓話者：四大奉仕委員長 クラブ奉仕委員長 三宅 有 会員
職業奉仕委員長 菅原 正明 会員
社会奉仕委員長 最上 次郎 会員
青少年奉仕委員長 西ノ内猛宏 会員

★定例理事会⑦ 13:45～ 事務局（理事会構成メンバー）

万博に想う



古市 仁

2020年の「東京オリンピック」が3年後に迫り、準備が急ピッチで進む中、今度は大阪市が、2025年に夢州を舞台に「大阪万博」の開催を目指して、博覧会国際事務局（BIE）に立候補を申請し承認されました。但し、同年にはフランスも立候補しており、激しい誘致合戦に成りそうです。

フランスは既に2024年のオリンピックが粗決まりで、2年も続けてビッグイベントが出来るのかと思いますが、何とか日本で 国、府、財界 が一体と成って頑張って頂きたいと願う次第です。此処で万博について記しますと「万博」は略称で、正式には、国際博覧会条約に基づいて行われる「国際博覧会」とあります。

この条約によりますと「複数の国が参加した、公衆の教育を主たる目的とする催しであって、文明の必要とするものに応ずるために人類が利用する事の出来る手段または人類の活動の一つ若しくは複数の部門に於いて達成された進歩若しくはそれらの部門における将来の展望を示すものを言う」とあり、直訳のせいか、何か良く判りません。歴史的には旧く、紀元前のエジプト国王即位行事で芸術品を披露した事や古代ローマの辺境征服時の戦利品を誇示した事などが起源と言う説もありますのでオリンピックより古いのかも知れません。

(裏面につづく)

次回例会のお知らせ [第2318回・平成30年1月23日(火)]

★皆出席表彰

★お食事はミリオンランチです。

★卓話予定

★例会場 4F 真珠の間

・クラブ討論会⑧「後半に向けて」

・卓話者：国際奉仕委員会 近藤 治郎 委員長

ロータリー財団 田中 潤治 委員長

米山奨学会 竹井三千彦 委員長

★「次年度理事会」 13:45～ 事務局（次年度理事会構成メンバー）

前回例会（第2316回・1月9日（火））の報告

・出席報告

	12月5日	12月12日	12月19日	1月9日
会員総数	43名	43名	43名	44名
出席免除会員数	14名	14名	14名	14名
欠席会員数 (内、出席免除会員数)	9名 (5名)	12名 (5名)	4名 (2名)	14名 (4名)
出席率	89.47%	81.58%	95.12%	86.84%
修正出席率 (メキャップ数)	92.11% (1名)	86.84% (2名)	—	—

・卓話

テーマ「2018年度 年頭挨拶会」

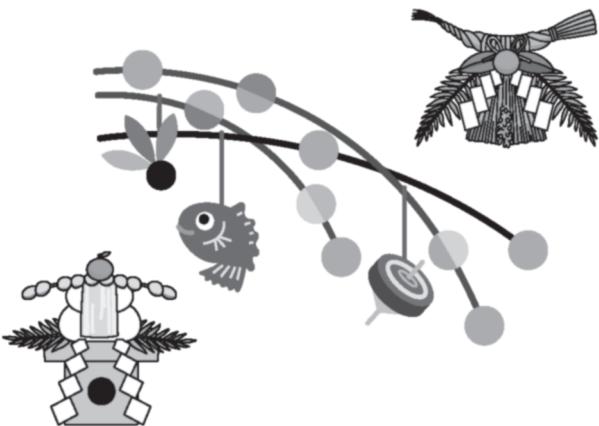
卓話者：小嶋 敦 会長

・その他

本日より、岩元 孝樹 会員が入会されました。



小嶋 会長 年頭のご挨拶



田中潤治会員による乾杯

（表面のつづき）

その後、ヨーロッパ各国で物品や技術を集めた国内博覧会が開かれるように成り、1475年にフランスのルイ11世がロンドンで開催した「フランス物産展」が近代博覧会の原型とされ普及していきました。

そして、1851年、ロンドンで開かれた「第1回ロンドン万国博覧会」で国際博覧会の歴史が幕を開ける事に成りました。当時はビクトリア女王の時代で大変な評判だったようです。この年日本では嘉永4年、ペリー来航の2年前でした。日本が初めて国際博覧会に参展したのは、1867年（慶應3年）の「第2回パリ万博」で幕府および薩摩藩と佐賀藩が行ない、1873年の「ウイーン」からは公式に参加しております。万博の開催国は、記念にモニュメントを造る事が多く、1851年の「水晶宮（ロンドン）」や1889年の「エiffel塔（パリ）」等は著名で、現在も観光の名所に成っております。

日本での開催については1890年に計画されましたが時期尚早で流れ、次いで1940年に東京の月島周辺を会場に、紀元2600年記念として、「日本万博」と「東京五輪」を催すべく準備をすすめ、前売り券（10円）も販売され、整備の一環で「勝鬨橋」が造られましたが、日中戦争激化により中止と成りました。余談ですが、この時の前売り券が後々まで使用可能であった事から、大阪万博で3077枚、愛知万博で48枚使われたそうです。種々文献を調べておりますと、ついあれもこれもと長く成ってしまいました。

（つづく）